

平成25年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	上田産「ブランド繭」の育成のための養蚕振興
事業主体 (連絡先)	NPO 法人 和遊学舎 (電話: 0268-26-8833)
事業区分	(6)オ その他地域の特色及び個性を活かした産業振興並びに雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト・ハード事業
総事業費	2, 889, 537円 (うち支援金: 1, 977, 000円)

事業内容

I. 上田産「ブランド繭」の育成のための養蚕振興

1. 桑園整備 (市内小牧地区 他)
 - ・桑園予定地 (19.8 a) にクワ苗を栽植し、整備する。
2. 蚕室整備
 - a. 飼育器材の整備
 - ・小牧地区の古民家を蚕室として活用すべく整備する。
 - ・上記目的のため、各種養蚕器具を購入・設置する。
 - b. 飼育環境の整備
 - ・安定した飼育環境を確保するため、蚕室保温の設備を整える

【目標・ねらい】

- 上田での養蚕による「ブランド繭」の育成
- 遊休荒廃農地の桑園化と養蚕復興
- 地域の人々・教育機関との良き連携の構築

II. 教育文化の振興、障害者・若者・高齢者の雇用促進、就労支援

1. 初等教育現場における協力
 - ・近隣の小学校、幼稚園・保育園等の教育機関で、様々な視点からの蚕糸科学文化を体験させる授業の協力を積極的に行う。
2. 就労支援利用者のための自立訓練および技術習得
 - ・就労支援利用者に桑園整備、給桑、蚕室整備等の仕事をとおした就労の機会とする。さらに今後も生糸繰糸、製品加工面での仕事を加えて行く。

事業効果

I-1. 桑園整備

- ・栃木県の業者から購入した 1,500 本のクワ苗を、仮植越冬後、3 月中旬に桑園予定地 (19.8 a) に定植した。
 - ・上記桑園予定地周囲に電気式獣害防護柵を設置した。
 - ・これにより遊休荒廃農地を桑園として再生し、あわせて養蚕振興を推進することができた。
- ◎クワ苗 1,500 本を植栽した桑園は、3 年後には春蚕期・秋蚕期各 3 万頭の家蚕幼虫飼育に十分な収量をもたらすものと期待される。

I-2. 蚕室整備

- a. 飼育器材の整備
 - ・小牧地区の古民家を蚕室として整備した。
 - ・群馬県の農蚕具扱い業者から収繭・毛羽取り機の他、各種の養蚕器具を購入し、飼育環境を整備した。



クワ苗定植と電気柵設置をした桑園



平成 25 年秋蚕期の飼育風景

- ・整備のできた蚕室で、本年度秋蚕期に家蚕幼虫1万頭を飼育し、14.5kgの上繭を収穫した。
 - ・現在までのところ、上記秋繭の2/3量を持ちいて、生糸約0.75kg、「紬糸」約1kgを曳くことができた。
 - ・上田紬の着尺(「蚕都乃紬 新繭 上田縞」)2反を織り、2月下旬の展示発表会に出品した。
- ◎桑作り→繭作り→糸作り→染め→織り→製品販売の一貫作業が生むブランド力と特徴を備えた、今までにない創作絹織物を上田市で初めて製作し、広く市民に周知することができた。
- ・秋蚕期収繭量の約1/3量にあたる5kgの繭は今後、職員・就労支援利用者のための研修教材として、また施設見学者への体験実習材料として活用を続ける予定である。

b. 飼育環境の整備

- ・蚕室には灯油式ファンヒーターおよび蚕室保温用ビニールカーテンを設置した。

II-1. 初等教育現場における協力

- ・市内小学校3校、保育園1園、市外保育園4園および県外高等学校1校に対して授業および学習支援を行った。

◎この活動を通して、生徒たちに養蚕の理解をしてもらえるとともに、かつて地域を支えた文化の理解にまで発展させることができた。

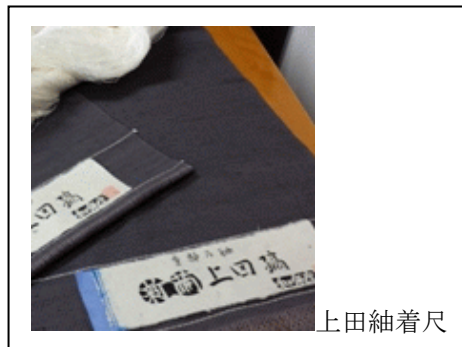
II-2. 就労支援対象生のための学習環境の提供

- ・就労支援利用者に養蚕・収繭・繰糸等の作業を体験する場を設営・提供し、和服調製過程における川上～川中技術の理解を推進することができた。

◎これにより、就労支援対象の若者たちがより上質の縫製を心がけることが期待される。

5. 地域との交流

- ・ブランド繭育成の養蚕をするにあたり、広く市民の参加を呼びかけ、桑園、蚕室のある小牧地区住民の皆さんとの交流を図ることができた。



上田紬着尺



浦里小学校でのカイコ授業



利用者たちによる良繭選抜作業

今後の取り組み

※2 自己評価 (事業効果) 【 A 】

- ・桑園面積の一層の拡大 —— 引き続き荒廃農地を桑園化し、49aまで規模拡大をする予定である。これにより農地の再生が促進され、農村景観が復活することが期待される、また養蚕規模を拡大させることができる。
- ・特殊生糸製造装置を導入することにより、紬糸を自由に作る環境を整える —— 紬糸を曳くために繭を真綿に広げる手順を省略することができるため、和遊学舎利用者が容易に紬糸を作ることができる。また、真綿作りに要する熱エネルギーを大幅に節約することができる。
- ・撚糸装置の導入による、撚糸作業の自家実現 —— 生糸、紬糸とも、実際の機織りに使うためには複数の原糸を撚り合わせる作業が必須である。撚糸装置の導入により、「栽桑・養蚕から機織りまで」の一貫した作業を実現することが可能となる
- ・「養蚕」未体験世代への養蚕・製糸作業の周知活動 —— 蚕室の古民家内に人々の集える談話室を整備する。ここでは養蚕や製糸(座繰り)体験の場を提供し、市民に「養蚕から機織りまで」各手順の理解を深めてもらう。